



◆生育状況について

1. 長野県果樹試験場 M9 台木生育 ※1991～2020年の平均値

	発芽	展葉	満開
令和6年			
令和5年	3/12	3/24	4/11
令和4年	3/17	4/7	4/24
令和3年	3/8	3/28	4/22

2. JA管内 ふじ生育

	発芽	展葉	開花	満開	落花
平年	3/29	4/13	4/23	4/26	5/2
令和6年					
令和5年	3/22	3/31	4/12	4/17	4/22
令和4年	3/29	4/9	4/21	4/23	4/28
令和3年	3/22	3/31	4/17	4/21	4/26

◆当面する重点作業について

1. せん定が遅れている場合は、早急に進める。また、切り口には、必ず塗布剤使用する。
2. 休眠期防除を徹底する。
3. 苗木の水分管理を徹底する。
4. ネズミ対策として、雪解け後は食料が少ない時期で効果が高い㊦「ヤソヂオン」を使用する。

◆褐斑病・黒星病対策について

近年、褐斑病の発生が増加している。被害葉は、当年の発生源になるため、焼却処分・耕運（黒星病のみ）や、土中に埋めるなどの対応を実施し、菌密度を減少させる事が重要です。

◆粗皮削りにについて

リンゴワタムシ（メンチュウ）・カイガラムシ類・ハダニ類の薬剤防除効果を上げるためと、腐らん病の早期発見のため、第1回薬剤防除までに粗皮削りを行い、薬剤の効果を向上させる。

◆腐らん病対策について

腐らん病も同様に、増加傾向となっている。被害部の放置や、処置しても適正にされていない事例も目立っており、感染拡大の要因となっているため、対策を徹底する。

1. 小枝の枯れ込み（果台感染）は、早期に除去し焼却する。
2. 胴腐らん病は、病斑部を紡錘形（上・下の部分を多く）に削り取る。
3. 病斑部の削り取った部位は、トップジンMペースト又はベフラン塗布剤を塗布する。
4. 園地内の治療箇所などを重点的に点検（再発が多い）し、被害箇所は早期に処理する。

◆農薬使用による、薬剤散布に係わる留意事項について

果樹総合情報でお知らせしている通り、十分注意し実施する。

◆第1回薬剤散布について

1. 散布時期：3月18日（月）～3月24日（日） 散布日 月 日

2. 調合量：水880当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
スプレーオイル	2ℓ	ハダニ類・カイガラムシ類	発芽前
石灰硫黄合剤	10ℓ	越冬病害虫・腐らん病	発芽前

3. 散布量：10a当り＝3500ℓ以上

4. 留意事項

- ①温暖無風を選び、アスパラガス等他作物・他品目に薬液が掛からないように十分注意する。（特に収穫期の作物が近くにある場合は、散布前に隣接園へ声をかける等、対策を講じる）
- ②石灰硫黄合剤が結晶化してしまった場合、容器ごとぬるま湯に付けると溶ける。
- ③薬剤調合は、沢山の水で先にスプレーオイルを溶かし、石灰硫黄合剤を加用、丁寧に攪拌しながら散布する。
- ④カイガラムシ類、リンゴハダニの発生が多かった園は、散布時期が遅れないように注意しスプレーオイルを必ず散布する。（カイガラムシ類は、石灰硫黄合剤との混用でより効果が高まる）

近年、カイガラムシ類は増加傾向で、令和5年度は高温傾向で、被害が果実まで広がった。今回はもっとも重要な薬剤防除となる。樹冠内部、主幹部の上から下まで、しっかりと薬剤を掛ける事が重要です。

- ⑤スプレーオイルに代えて、ハーベストオイル50倍を使用してもよい。
- ⑥カイガラムシ類発生が無い場合は、石灰硫黄合剤に代えてベンレート水和剤2,000倍（水100ℓ当り50g）を使用してもよい。（腐らん病効果のみで、カイガラムシ類等に効果は無い）

◆半わい化栽培講習会開催について

期日	曜	時間	開催場所	集合場所（10分前に）	担当
3月21日	木	午後 2:00	移動します	信更流通センター	寺沢
3月21日	木	午後 2:00	小林和彦様園（綿内）	綿内清水諏訪社前	根津

◆高密植栽培講習会開催について

期日	曜	時間	開催場所	担当
3月21日	木	午前10:00	保科 八幡公民館近く 山本忠弘様園 不明な方は9時40分までに若穂果実流通センターへ集合	根津
3月27日	水	午前 9:30	篠ノ井会 あいアップル様園	寺沢

◆凍害対策で巻いたワラについて

できるならば除去せず開花時までそのままにしておく。農薬散布はワラにもタツプリかかるように行う。前年の凍害でも遅くまで巻いていた園では被害が少ない傾向です。

弱い樹（早生・中生種）は抵抗性が低く、強い樹（ふじなど）は水上がりになる場合があるので注意する。

◆台木・幹部の亀裂障害対策について

近年の気象条件かで、若木では台木・幹部の樹皮亀裂発生が心配される。園地を見回り対策を実施下さい。

1. 発生条件：地温の上昇に伴い、園地内の水分の多い場所（雪解け水が多い・地下水位が高い）で発生しやすい。
2. 発生時期：根の活動が始まる3月下旬までに発生が多い。
3. 対策：亀裂が発生しているところは乾燥防止のためにトップジンMペーストを塗布する。
亀裂が大きい場合は荒縄や緑化テープ（麻布）などで縛り、トップジンMペーストを塗布する。
塗布は直ちに行う。1ヵ月後では手遅れとなる。

◆新しい化栽培（高密植栽培）の施肥について（全品種共通）

施肥時期	肥料名	施肥量（10a当）
3月下旬から4月	有機専科	2袋
	果樹の力	2袋

1. 留意事項
 - 1) 有機専科に代えてグリーン長野果樹専用有機入り72を1袋でもよい。
ただし、この場合は3月上旬が本来の施肥時期のため早急に施肥する。
 - 2) 主幹伸長の状況や土壌診断結果を参考に樹勢に応じた施肥を行う。
近年樹勢の低下や品質低下が多い傾向。基本となる栽培管理（誘引・摘花・摘果・着果量・葉摘み・収穫など）を正しく行い目標収量の5～6トン/10a当を目指す。

◆新しい化整枝せん定について

1. 時期
 - 1) 樹液が上がる前に切ると樹勢は強くなる ⇒樹勢が弱い場合は3月にせん定を行う。
 - 2) 4月に切ると落ち着きやすい（枝が伸びにくい） ⇒強樹勢の場合は4月に行う。
2. 樹勢判断
 - 1) 昨年伸びた主枝延長枝の長さで判断する。
 - ①1年目30cm、2年目50～75cm、3年目以降30cmが適樹勢の目安。
3. 実施方法
 - 1) 切除する枝
 - ①地上80cm以下から出た枝（地面につく枝）
 - ②直径2cm以上になった枝（小枝を出すため握りこぶし分残して切る）
 - ③側枝（フェザー）の基部から出た枝や二又を整理してすっきりした枝にする。

《栽培に関する問合せ》

寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576・松澤（若穂）080-1191-5166

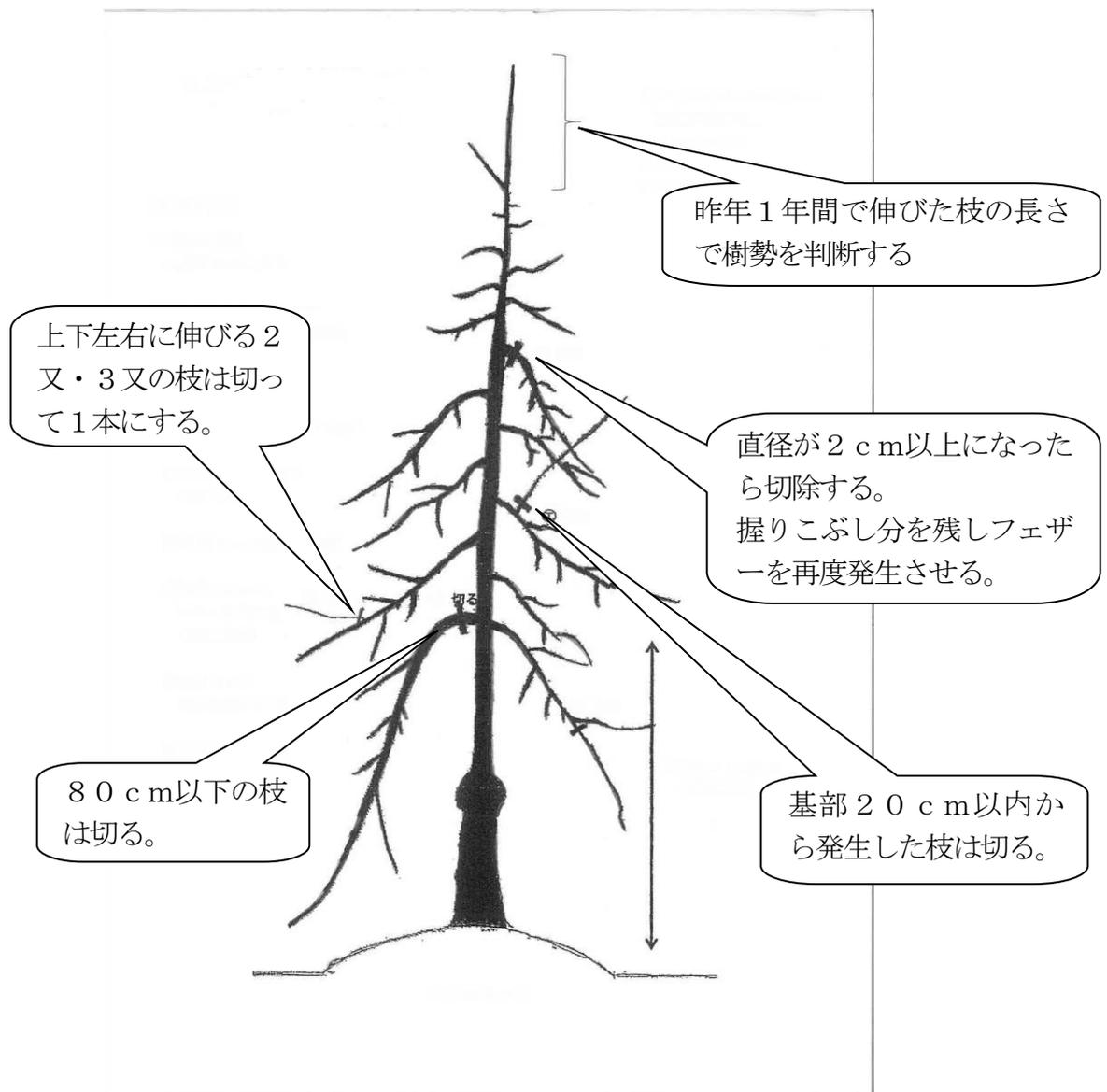
吉澤（情報・編集担当・全域）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816／松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311



◆新しい化栽培苗木でフェザー（副梢）の発生が少ない苗について

フェザー（副梢）の促進を図るため、下記の対策を実施する。

1. 方法

発芽前までに、ネギ袋（穴あき）を使用し、主幹先端は20cm位開け、地上60cm位を目安にフェザーが欲しい所まで被覆する。除去は5月の袋の中がいっぱいになった頃外す。

2. 留意事項

- 1) 先端は必ず出す（袋で長さを調整）
- 2) 袋の上は閉じない。閉じると下枝が出にくくなる。
- 3) 支柱とマイカー線を利用して上下を固定する。風で揺れて袋が破ける。
- 4) 袋を外す時は「馴らし」が必要。袋に切り込みを入れ外気を入れる
- 5) 曇りの日に袋を外す。日焼けしても新しい葉が出るので気にしない。
- 6) 苗木だけでなく、3年生の昨年伸びた主幹部分や高接ぎして伸びた枝の部分にも応用が可能。

